

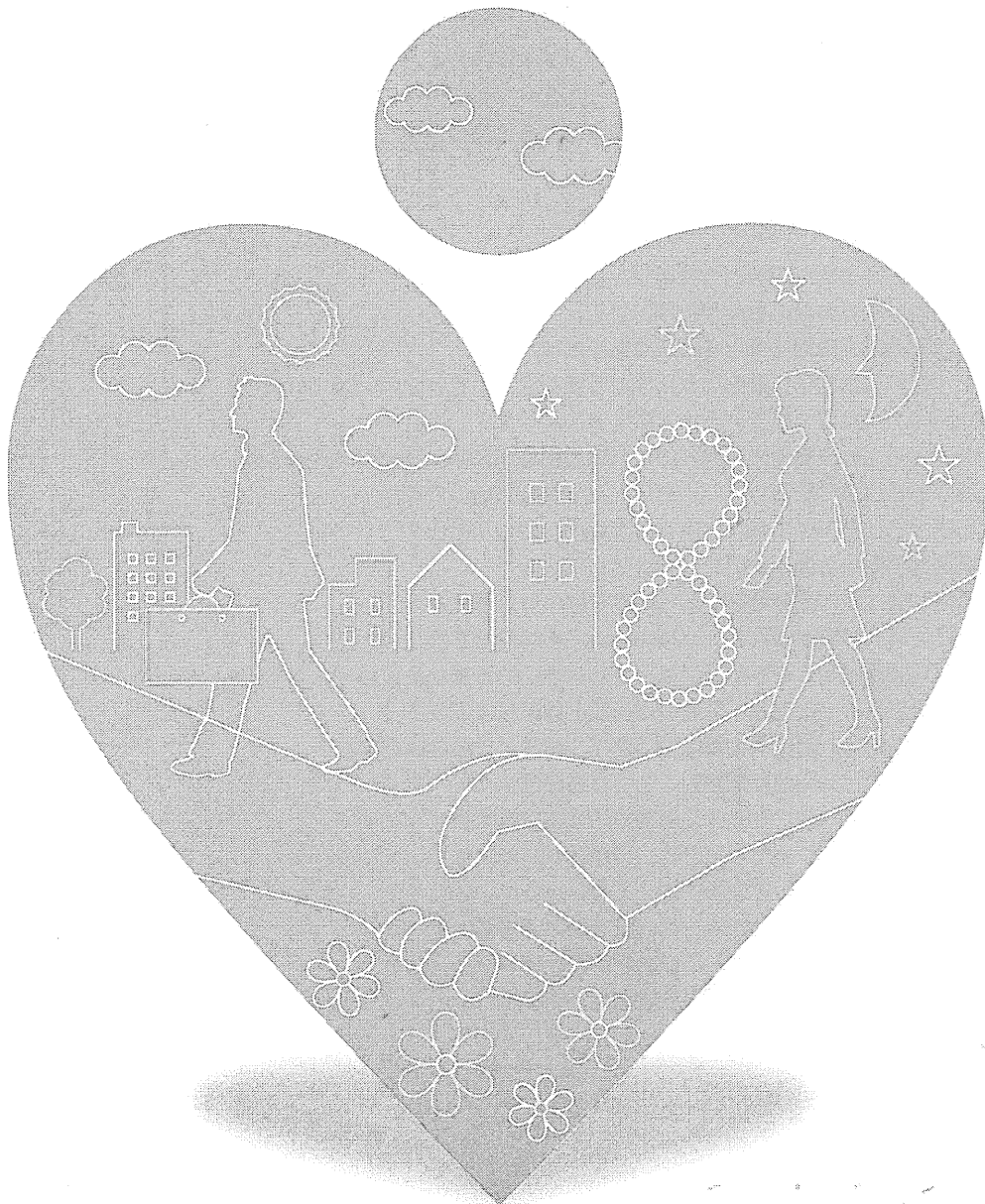
15. 高橋 都：「合併症スクリーニングにおける小児科と家庭医連携の課題」会長シンポジウム「小児がん経験者の長期フォローアップ」 第12回日本臨床腫瘍学会学術集会 2014.7.18 福岡市国際会議場 福岡市
16. 高橋 都：教育講演「がん治療後の性生活を考える—あなたが今日からできること」第19回日本緩和医療学会学術大会 2014.6.20 神戸市
17. 高橋 都：シンポジウム「仕事とがん治療の両立—納得度の高い働き方をどう実現するか」第19回日本緩和医療学会学術大会 2014.6.20 神戸市
18. 高橋 都 若年性乳がん患者とパートナーの性生活 早期からの支援提供を. 第22回日本乳癌学会総会シンポジウム, 2014.7.11 大阪国際会議場 大阪市
19. 高橋 都： シンポジウム「がん治療現場の医師・看護師による就労支援—実践のノウハウを学ぶ」第52回日本癌治療学会学術総会 2014.8.29 横浜市
20. 青儀健二郎, 山下夏美, 谷水正人, 宮内一恵, 菊内由貴, 清水弥生, 松本陽子, 高橋 都：「治療と就労の両立に関するアンケート調査」による地方がん患者就労支援のための基礎データ収集」 第52回日本癌治療学会学術総会 2014.8.29 パシフィコ横浜 横浜市
21. 古屋佑子, 高橋 都, 立石清一郎, 平岡晃, 富田真紀子, 森晃爾：がん就労者の支援に向けた職場と医療機関の連携(第1報) 好影響事例および悪影響事例の検討. 第87回日本産業衛生学会, 2014.5.24 岡山コンベンションセンター 岡山市

診断されたらはじめに見る

# がんと仕事のQ&A

がんサバイバーの就労体験に学ぶ

第2版



# 目次

## 1章 診断から復職まで

1. 入院で仕事を休むときの注意はありますか？	8
2. 休職の予定が立てづらいときはどうすればいいですか？	9
3. 医師へ仕事の相談ができますか？	9
4. 休職中の引き継ぎはどうすればいいですか？	10
5. 引き継ぎができなかった場合はどうしたらいいですか？	10
6. 自営業者が患者になった場合の仕事の代行方法は？	11
7. 上司が患者である場合、部下へどう説明したらいいですか？	11
8. 迷惑をかける前に自主的に降格を提案するべきですか？	12
9. 主治医と復職に対する考えが異なる場合、どうすればいいですか？	13
10. 家族と復職に対する考えが異なる場合、どうすればいいですか？	14
11. がん治療用の休職制度はありますか？	16
12. 社内の支援制度について誰に相談すればいいですか？	16
13. 社内の時短勤務制度やリハビリ出勤制度はどうやって調べればよいですか？	17
14. 会社に診断書などを提出したとき、プライバシーは守られますか？	17
15. 病名公表による退職勧告は違法ではありませんか？	18
16. 仕事関係者もつ「がんのイメージ」を変える方法はありますか？	19
17. 休職期間の目安を教えてください。	20

## 2章 復職後の働き方

18. 仕事関係者に治療の副作用をどう説明したらいいですか？	22
19. 抗がん剤の副作用で業務に支障が出ないでしょうか？	23
20. 副作用による通勤の負担を減らす方法はありますか？	24
21. 副作用による外見の変化（脱毛など）はどうすればいいですか？	26
22. カツラ利用時の蒸れについて、よい対策はありますか？	27
23. 外見が変化したため、職場の人間関係に影響が出ています。何かアドバイスは？	27
24. 体調に波があり仕事に影響している場合、どうすればいいですか？	28
25. 体調と年齢から仕事への意欲が維持できません。どうしたら？	29
26. 職場で病名は公表したほうがいいですか？	30
27. 健康診断時、既往症に治療歴を記入しなくてはいけませんか？	32
28. 通院で有給休暇を申請するときに、理由を伝えるべきですか？	33
29. 復職後、長期間配慮をしてもらうにはどうしたらいいですか？	34
30. 休職中に上司が変わった場合、気をつけることはありますか？	35
31. 上司が不在がちです。治療や仕事についてどう相談したらいいですか？	35
32. 治療による遅刻などを周囲に理解してもらう方法は？	36
33. 会社のつきあい（飲み会）をうまく断る方法はありますか？	36
34. 同僚に迷惑をかけるのが心苦しいです。何かアドバイスは？	36
35. 職を失う不安から無理をしていますが、どうしたらいいですか？	38
36. 復職後の勤務が体力的に辛いです。再休職を避ける方法は？	39
37. 休んでも何とかキャリアを維持したいのですが、アドバイスは？	40
38. 治療後に、体調にあった部署への異動は可能ですか？	41
39. 新しい仕事にやりがいを感じるためのヒントは？	42
40. 軽減された仕事内容が物足りないのですが、会社と交渉できますか？	43
41. 休職により昇級が見送られた場合、交渉できますか？	43
42. 契約社員は雇用保険に入れますか？	44
43. 職場での休息場所や休憩時間を交渉できますか？	44
44. 産業医や産業看護職とはどんな職種ですか？	45

45.産業医や産業看護職へ相談した内容のプライバシーは守られますか？	45
46.会社に産業医がない場合、社外に相談窓口はありますか？	46
47.産業医のアドバイスを上司が無視しますが、どうしたら？	46
48.派遣労働者は、派遣先の産業医や産業看護職に相談できますか？	47
49.有給休暇を使い切った場合、通院治療は欠勤扱いになりますか？	47
50.遠い通院先を近くの病院に変更することはできますか？	48
51.夜間や休日に治療を受けられる病院はありますか？	48
52.病気が原因で退職する場合、退職金などが不利になりますか？	49
53.がんを公表したら解雇されました。相談窓口はありますか？	50
54.退職勧告を受けました。生きる意味をどう探せばいいですか？	51
55.小児がん経験者の就職相談窓口はありますか？	52
56.副作用で味覚異常があり、調理の仕事が難しくなりました。どうしたらいいですか？	52

### 3章 新しい職場への応募

57.採用面接でがんの病歴を話さなくてはいけませんか？	54
58.まだ通院が必要です。採用者にうまく伝えるコツは？	55
59.採用時に病名を公表して不採用になった場合、違法ですか？	57
60.がんを伏せて採用された場合、後に問題になりますか？	58
61.がん患者の再就職支援制度はありますか？	59
62.興味ある求人を見つけたものの、後遺症が不安なのですが…	60

### 4章 お金と健康保険

63.退職後に傷病手当金を受けられますか。社会保険はどうなりますか？	62
64.入院による減収で困っています。家計を支える制度はありますか？	63
65.治療費を借りられる制度はありますか？	64
66.高額療養費が支払われなかった場合の相談先はどこですか？	64
67.国民健康保険の保険料が減額・免除される制度はありますか？	65
68.自営業者のための経済支援制度はありますか？	65
69.パートタイム勤務の場合、社会保障制度はどうなりますか？	66
70.勤務時間が短く雇用保険が受けられません。支援制度はありますか？	66
71.以前傷病手当金を受給している場合、再度手当金を受けられますか？	67
72.傷病手当金の申請方法は？	67
73.傷病手当金受給中に、時短勤務はできますか？	68
74.治療費は親の貯金を使っており罪悪感でいっぱいなのですが…	68
75.治療後に障害が残りましたが、障害者手帳を交付してもらえますか？	69
76.発病後に生命保険へ加入できますか？	69
77.休職期間中、社会保険料は免除されますか？	70
78.シングル家庭が相談できる場所や制度はありますか？	70

### 5章 家事や子育て

79.育児と治療や看病を両立するための支援制度はありますか？	72
80.家事の負担を軽減するにはどうすればいいでしょうか？	72
81.妻が入院中の家族の食事へのヒントは？	74

アドバイスの花束	76
資料編	78
索引	80

# コラム目次

## 1章 診断から復職まで

1. 人事に相談してください	8
2. こうやって上司の理解を得ました	10
3. フリーランスの仕事の工夫	11
4. 責任者の私がいなくても業務はまわった	12
5. ありがたかった主治医のサポート	13
6. 家族とのコミュニケーション	15
7. 家族だって驚いた	15
8. 日本人のがんイメージ	19

## 2章 復職後の働き方

9. こうして化学療法を乗り越えました	23
10. 優先席にも座ります	24
11. 元気に見えてもつらいカラダがあります 「知ってほしいキャンペーン」	25
12. 「オストメイトを知ってもらおうプロジェクト」	25
13. 仕事をするための外見ケア	26
14. 再発の不安には波があります	28
15. 人工肛門～わたしの工夫	29
16. 話をするだけで少し気持ちが落ち着きました	30
17. 堂々と話せば、相手も長所として受け止めてくれます	31
18. 取引先への説明	31
19. 伝えた方が隠すストレスがなかった	32
20. 努めて明るく	32
21. 決して悪い方向には行かないと信じて	33
22. 周囲は忘れてしまうものです	34
23. 同僚とのコミュニケーションの工夫	34
24. 新しい職場でのコミュニケーション	35
25. 同僚の理解を得るために～産業保健師の視点	37

26. 同僚への気遣い	37
27. 治療中に励みになったこと	38
28. 僕には見知らぬ応援団がたくさんいた	38
29.好きな職場をやめたとき	39
30. 自己管理は自信につながる	40
31. 「ボツン」の時に考えた	41
32. 仕事で挫折を味わったとき…	42
33. 通院日数短縮の秘策	48
34. 「早まってやめるな」と言ってくれた知り合い	49
35. 病気の体験から得たこと	51
36. 小児がん経験者への支援	52

## 3章 新しい職場への応募

37. 採用担当者が考える「がん既往歴」	54
38. 僕の就活	56
39. 息子の就活	56
40. 職探しの相談にのる立場から	59
41. 「ひとりじゃないよ」～同じ病気を持つ仲間との交流	60

## 4章 お金と健康保険

42. 働くことは「原動力」でした	67
43. 父の死から学ぶ	69

## 5章 家事や子育て

44. 支えられ、生かされて今があります	73
45. 家事の工夫	73
46. 忙しいときのシンプル食生活	74
47. サバイバーと呼ばれることについて	75

## 厚生労働科学研究費補助金(がん政策研究事業)

### 分担研究報告書

#### 「働くがん患者のための症状別対応ヒント集(案)」作成に向けた体験談収集調査

#### 研究代表者

国立がん研究センターがん対策情報センターがんサバイバーシップ支援研究部長  
高橋 都

#### 研究要旨

【目的】がん治療は種々の副作用や合併症を引き起こすが、患者が就労する際、それらの症状が作業の障害になることが少なくない。

本研究の目的は、患者から職場に向けて就業上の配慮を依頼する際に活用する「症状別対応ヒント集(案)」作成に向けた体験談を収集することである。

【方法】国立がん研究センターがん対策情報センター「患者・市民パネル」登録者100名に向けて、体験談収集への協力を依頼。協力意思を表明した17名を対象として、45種類の症状について、「就労場面で経験した困難」「自ら工夫したこと」「役立った就業配慮」「欲しかった就業配慮」「職場に配慮を求める際の工夫」「症状別対応ヒント集(案)への意見」の6点について自由記述で体験談と意見を収集した。

【結果および考察】17名全員から、事前に設定した45種の症状と、「その他」の症状として挙げられた9種の症状への対応策について、症状別に58件の体験談が得られた。今後、今回得られた58件の体験談の内容分析と協力者への追加取材を経たうえで、症状別の暫定対応例をまとめる予定である。さらに、今回体験談を得ることができなかったがん種、症状、年代について、複数の患者支援グループの協力を得て体験談の追加収集していく予定である。

#### 分担研究者

山本精一郎 国立がん研究センターがん予防・検診研究センター 保健政策研究部長

溝田友里 国立がん研究センターがん予防・検診研究センター 保健政策研究部  
予防・検診普及研究室長

宮下光令 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学 教授

#### 研究協力者

平岡 晃 (小松製作所健康増進センター産業医)

古屋佑子 (IHI 産業医)

酒井 瞳 (日本医大武蔵小杉病院腫瘍内科助教)

赤羽和久 (名古屋第二赤十字病院一般消化器外科医師)

富田真紀子 (がん研究振興財団リサーチレジデント)

田崎牧子 (国立がん研究センターがん対策情報センター 特任研究員)

## A. 研究目的

がん治療は種々の副作用や合併症を引き起こすが、それらの症状は、患者の就労場面で種々の障害を引き起こすことが少なくない。しかし、各症状が就労場面におけるどのような作業で引き起こす具体的な困難の内容や、効果的な対応策は明らかではない。

就労場面における具体的な困難と、それらの困難の軽減に役立つ本人の工夫や職場からの配慮をまとめた「症状別対応のヒント集」を作成すれば、治療と就労の両立に大きく役立つ可能性がある。

本年度は、「症状別対応のヒント集」に向けた基礎データ収集を目的として、体験談収集調査を実施した。

## B. 研究方法

国立がん研究センターがん対策情報センター「患者・市民パネル」に調査協力を依頼した。「患者・市民パネル」とは、国立がん研究センターがん対策情報センターの活動を支援する目的で組織され、応募・選抜プロセスを経て委嘱された患者・家族・市民である

(<http://www.ncc.go.jp/jp/cis/panel/panel01.html>)。

「患者・市民パネル」事務局の承認を得て、同パネル登録者 100 名に向けて、平成 27 年 2 月に症状別対応体験談収集調査への協力を依頼した。「患者・市民パネル」事務局からパネルメンバーにあてて、研究班が作成した調査協力依頼状を送信したところ、17 名（全員患者）が研究班に調査協力を申し出た。

その 17 名に対して、2 月 16 日に質問紙

をメール送信し、2 月末を締切として、フックスまたはメール返信の形で体験談を収集した。

質問紙(資料 1)には以下の項目を含む。

- ①調査協力者が診断されたがん種（選択式）、
- ②過去に受けた治療内容（選択式）、
- ③研究チームがリストアップした 45 種類の合併症・副作用症状別の、「その症状によって生じた就労場面の困難」「困難軽減に向けて自分で工夫したこと」「職場の配慮で困難軽減に役立ったこと」「職場からもっとほしかった配慮」（自由記述）、
- ④自分から職場に配慮を求める際に相手に理解してもらうために工夫（自由記述）、
- ⑤症状別対応ヒント集（案）への意見（自由記述）。

また、追加取材への協力を了承する場合は、氏名、電話番号、メールアドレスの記載を依頼した。

<倫理面への配慮>

「患者・市民パネル」への調査協力に際しては、同パネル事務局に研究計画書を提出して承認を得たうえで、依頼状を事務局から送信した。研究協力は任意であることを明記し、協力の意思を持つパネルメンバーのみが研究班にコンタクトをしてメールアドレスを開示する形とした。

## C. 研究結果

調査協力の意思を示した 17 名全員から計 58 件の症状別対応体験談が寄せられた。また、全員が追加取材に同意した。

協力者の性別は、男性 7 名、女性 8 名、不明 2 名。がん種は乳がんが 4 名と最多であり、悪性リンパ腫 2 名、膀胱がん、大腸がん、脳腫瘍、肝内胆管がん、甲状腺がん、GIST、子宮肉腫、白血病、精巣腫瘍が各 1

名、胃がん・大腸がん・膀胱がん・前立腺がんの重複が1名であった。

17名中16名は就労の妨げになった症状を複数指摘した。

図1に、事前に設定した45種の症状と協力者が「その他」に挙げた症状について、「就労の妨げになった」と指摘したものを多い順に示す。「だるさ・疲れやすさ」は15名と最多であり、「気分の落ち込み」9名、「記憶力・集中力の低下」8名、「吐き気」「脱毛」各7名、「下痢・便秘」「感染しやすさ」「視力低下」「手術部位の痛み」各6名などが続いた。「骨転移の痛み」を指摘した協力者はいなかった。また、その他の症状として、「体力低下」「味覚障害」「歯周病」「咳が出る」「風邪をひきやすい」「首の動かしにくさ」「休職できない辛さ」「全身のむくみと体重増加」「聴力低下」「腰痛」が挙げられた。(注:「風邪をひきやすい」は図1では「感染しやすさ」にカウントしてある。)

さらに、複数の症状が複合的に就労の妨げになる事例(例:「吐き気+口内炎」、「だるさ+疲れやすさ+記憶・集中力の低下+吐き気」、「手足のしびれ+手足の痛み+関節痛」など)も数多く報告された。

現在、17名の各協力者について、追加取材をすべきポイントの確認を進めるとともに、自由記述で体験談を収集した①症状別の具体的困難、②自分で工夫した対処法、③職場の配慮で役立ったこと、④さらにほしかったこと、⑤就業配慮を得るための職場との交渉で工夫したこと、⑥ヒント集への意見の6種のトピック別に、質的内容分析を実施中である。

## D. 考察

17名の協力者から、症状別の職場における対応例として58件の体験談を収集した。

今回試験的に用いた体験談収集用調査票(資料1)は、症状別の対応情報の収集に役立つと考えられたが、一部事実関係の把握が難しい事例もあり、メールや電話を用いた追加取材が必要であると考えられた。また、本人の診断時年齢、回答時年齢、勤務先業種、雇用形態、作業内容、従業員規模、職位などの情報収集も必要と考えられた。

調査票より収集した体験談の中で、「職場の配慮で困難軽減に役立ったこと」、「職場からもっとしてほしかった配慮」から得られた回答の現時点の分析では、以下の対応があると、就労を継続する際に困難が軽減することが予想された。

- ① 温湿度・照度の調整が可能なこと、職場での喫煙や香水を制限すること、横になれる休憩室や洗浄便座、手すり、私物保管用の冷蔵庫の設置など職場環境因子によるもの
- ② フレックス勤務、短時間勤務、1時間単位の有給休暇の取得、役職解除、制服通勤の承認など柔軟な勤務形態を認めること
- ③ 休業制度や傷病手当金などの情報を事前に知らせること
- ④ 一時的な副作用・合併症が発症した場合、一時的に業務負荷を軽減すること。

これらの対応は患者本人よりも職場が調整することが望ましい要素であることが考えられた。

今後、今回得られた計58件の体験談の分析と協力者への追加取材を経たうえで、症



状別の暫定対応例をまとめる予定である。

さらに、今回体験談を得ることができなかったがん種、症状、年代について、複数の患者支援グループの協力を得て体験談の追加収集していく予定である。

来年度は今回の協力者への追加取材と新たな協力者への調査をもとに、「働くがん患者のための症状別対応ヒント集（案）」を作成し、その内容と理解しやすさについて調査協力者からフィードバックを得て修正した最終版を公開する予定である。

#### E. 結論

17名のがん患者から、就労の妨げになる症状と対応策について計 58 件の体験談を収集した。来年度は症状別対応ヒント集を作成し、公開する予定である。

#### F. 参考文献

なし

#### G. 研究発表

なし

## 資料1 「働くがん患者のための症状別対応ヒント集(仮)」作成に向けたアンケート

このたびはご協力ありがとうございます

アンケートは 2月28日までに返信いただければ幸いです。返信先は最終ページをご参照ください。

問1 診断を受けたがんの種類を教えてください。(例：乳がん、肺がん など)

複数の場合はすべてお書きください。

\_\_\_\_\_

問2 これまでに受けられた治療に○をつけてください。(○はいくつでも可)

1. 手術	2. 放射線療法	3. 抗がん剤治療(化学療法)	4. ホルモン療法
5. その他(具体的に			)

問3 がんの治療に関連する合併症や副作用には様々な症状があります。

以下の症状で、あなたが働く際に、妨げとなった症状すべてに○をつけてください。(○はいくつでも可)

1 だるさ・疲れやすさ	17 下痢・頻便(便が近い)	33 口内炎
2 記憶力・集中力の低下	18 便失禁	34 声の出にくさ・しゃべりにくさ
3 気分の落ち込み	19 人工肛門・人工膀胱	35 口内の乾燥・唾液の出にくさ
4 顔色の変化	20 頻尿・我慢できない尿意	36 痰の増加
5 頭痛	21 尿漏れ	37 腕の動かしにくさ
6 体重減少	22 自己導尿	38 足の動かしにくさ
7 吐き気	23 皮疹・皮膚の荒れ	39 肩こり
8 食欲低下	24 爪の変化	40 腕のむくみ
9 手足のしびれ	25 脱毛	41 足のむくみ
10 手足の痛み	26 視力低下	42 手術部位の傷の痛み
11 関節痛	27 流涙	43 放射線照射部の皮膚の違和感
12 ほてり・のぼせ	28 感染しやすさ	44 骨転移の痛み
13 発汗	29 発熱	45 けいれん発作
14 食後のめまい・冷や汗・動悸	30 めまい・ふらつき	46 その他( )
15 腹痛	31 息切れ・動悸	47 その他( )
16 胸やけ	32 血の止まりにくさ	48 その他( )

問4 前項で○をつけた症状の中で、あなたが働く際に困ったこと、ご自分で工夫したこと、職場の配慮で役立ったこと、職場からもっとほしかった配慮、について、症状ごとにできるだけ具体的に教えてください。

※仕事の妨げになった症状が5つ以上あった場合、ページをコピーしてご記載ください。

※体験談セクション（問4）のあとの問5もお忘れなくご記載ください。

※記入量が多くてアンケートのレイアウトがくずれても、内容がわかれば結構です。

症状 1 \_\_\_\_\_ 番 \_\_\_\_\_ (例：9番 手先のしびれ)

①その症状があったことで、働くときにどのように困りましたか？

(例：連続してパソコンの入力作業を続けることが難しかった。)

②その困ったことに対して、ご自分でどのような工夫をしましたか？

(例：パソコン作業とパソコンを使わない作業を交互に行った。)

③その困ったことに対して、職場がしてくれた配慮で、役に立ったことを教えてください。

(例：上司が一時的にパソコンの入力業務の量を減らしてくれた。)

④その困ったことに対して、職場から「もっとこのような配慮があればよかった」ということがあれば教えてください。(例：もう少し入力しやすいキーボードがあれば作業しやすかったかもしれません。)

症状 2

番 \_\_\_\_\_

① の症状があったことで、働くときにどのように困りましたか？

②その困ったことに対して、ご自分でどのような工夫をしましたか？

③その困ったことに対して、職場がしてくれた配慮で、役に立ったことを教えてください。

④その困ったことに対して、職場から「もっとこのような配慮があればよかった」ということがあれば教えてください。

症状 3

番 \_\_\_\_\_

① の症状があったことで、働くときにどのように困りましたか？

②その困ったことに対して、ご自分でどのような工夫をしましたか？

③その困ったことに対して、職場がしてくれた配慮で、役に立ったことを教えてください。

④その困ったことに対して、職場から「もっとこのような配慮があればよかった」ということがあれば教えてください。

症状 4

番

① の症状があったことで、働くときにどのように困りましたか？

②その困ったことに対して、ご自分でどのような工夫をしましたか？

③その困ったことに対して、職場がしてくれた配慮で、役に立ったことを教えてください。

④その困ったことに対して、職場から「もっとこのような配慮があればよかった」ということがあれば教えてください。

症状 5

番 \_\_\_\_\_

① の症状があったことで、働くときにどのように困りましたか？

②その困ったことに対して、ご自分でどのような工夫をしましたか？

③その困ったことに対して、職場がしてくれた配慮で、役に立ったことを教えてください。

④その困ったことに対して、職場から「もっとこのような配慮があればよかった」ということがあれば教えてください。

問5 症状を持ちながら働くとき、ご自分から職場に配慮を求めた方にうかがいます。

配慮を求める際、わかってもらうために工夫したことがあれば、どんなことでも教えてください。

例：がん関連の書籍・ホームページなどを見せながら説明した。

副作用の症状が出る期間は限られていることを説明した。

上司が忙しくなさそうなタイミングで説明した。

配慮が必要なことと共に、できることもアピールした。

まず会社の産業医や保健師に相談した。

ご自由にお書きください。

問6 「症状別対応ヒント集（仮）」の内容等について、ご意見がありましたらどんなことでもお書きください。

ご自由にお書きください。



## ご協力ありがとうございました

※ いただいたコメントの内容によっては、個別により詳しいお話を伺う場合がございます。

追加取材にご協力いただけますでしょうか？

1 はい	2 いいえ
------	-------



「はい」とお答えいただいた方は下記にお名前と連絡先の記載をお願いします。

お名前	
電話番号	
メールアドレス	

### アンケートの返信・お問い合わせ先

厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究事業

働くがん患者の職場復帰支援に関する研究

病院における離職予防プログラム開発評価と企業文化作りの両面から

返信先 E-mail : [info@cancer-work.jp](mailto:info@cancer-work.jp) FAX : 03-3547-6627

- ◇ 2月28日までに、メール添付またはファックスで返信をお願いいたします。
- ◇ メール返信の場合は、件名に「症状別対応ヒント集」と記載をお願いいたします。

事務局：

国立がん研究センターがん対策情報センター がんサバイバーシップ支援研究部 担当： 斧澤・高橋  
104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

電話：03-3547-5201（内線1643） FAX 03-3547-6627 [info@cancer-work.jp](mailto:info@cancer-work.jp)

※メールでお問い合わせの際も、件名に「症状別対応ヒント集」と記載をお願いいたします。

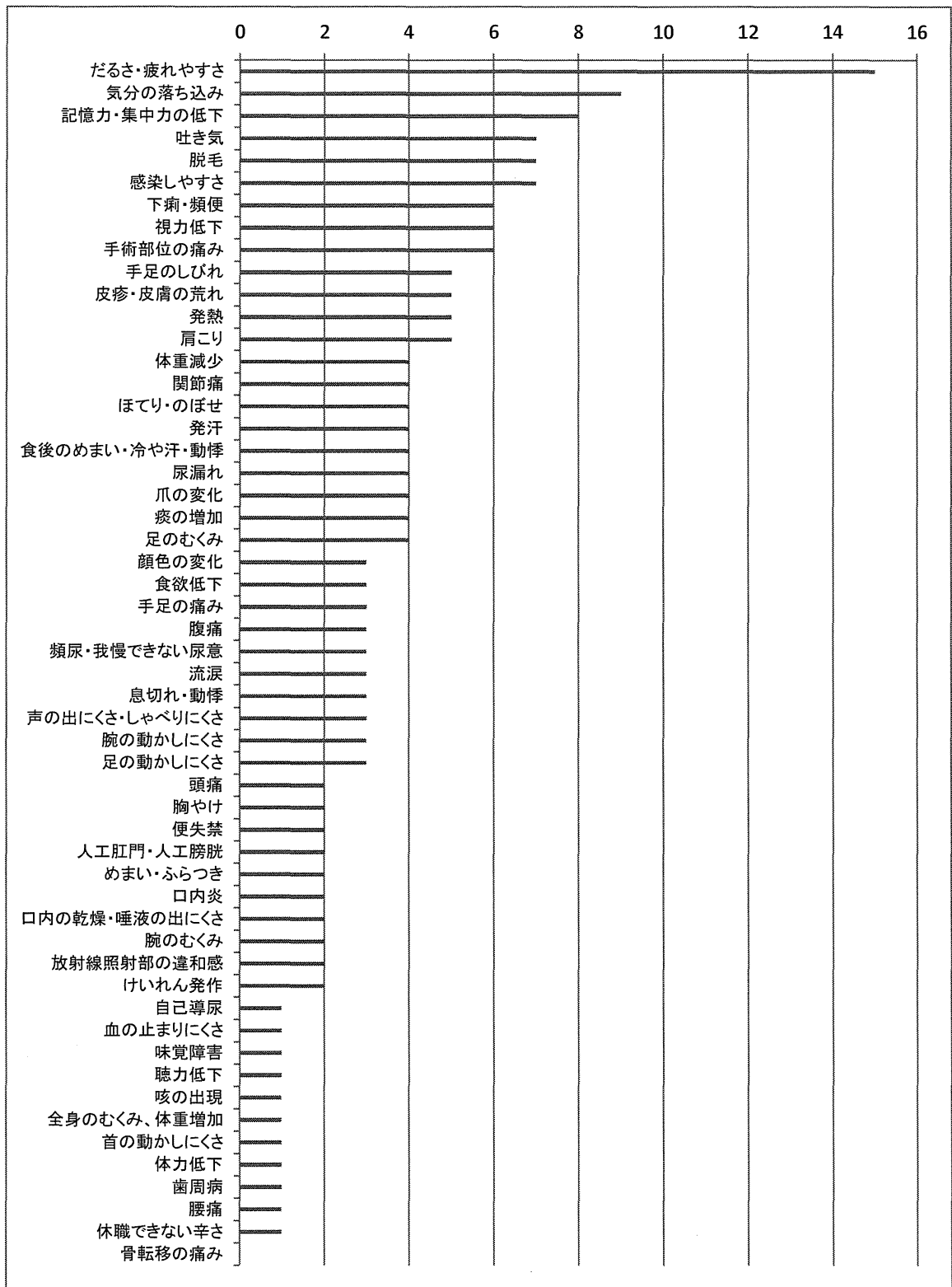


図1 就労の妨げになった症状

## がん患者の仕事と治療の両立に関する調査研究

研究分担者	国立がん研究センター東病院	病院長	西田 俊朗
	国立がん研究センター東病院	がん相談統括専門職	坂本はと恵
	国立がん研究センター東病院	呼吸器外科長	坪井 正博
	横浜市立大学大学院	教授	山中 竹春
	東海大学医学部	教授	立道 昌幸
	国立がん研究センター中央病院	呼吸器内科	堀之内秀仁

### 研究要旨

がん患者の職業生活と治療の両立のための支援体制は、現在政策的に進められつつあるが、それは、解雇や再就職が困難等、問題が顕在化した事柄への対応策として社会保険労務士やハローワーク・産業医との連携体制を強化するといった人的整備が中心であり、離職防止の観点からの仕組みづくりやアウトカム評価は行われていない。

本研究では、今年度、①がん患者の診断初期の離職率の把握、②離職背景と復職の阻害要因の解析、③就労継続・復職にあたり、医療者が果たすべき役割の明確化を目的とし、多施設における患者対象実態調査の実施を目指し、研究計画書の作成と各施設における体制整備を行った。

特に、実態調査では先行研究からすでに明らかとされているがん患者の離職リスク要因に加えて、新たにがんの部位・治療内容の相関を分析するとともに、治療の時間軸に沿って、いつ、どのようなタイミングで医療者が介入することが有用であるかを見極めることを目指している。

尚、長期的には、本研究の結果を反映する形で、がん患者診断初期の離職率低下と復職率増加を目指した、医療者介入型の離職防止・復職促進プログラムを開発し、評価することを目指している。

### A. 研究目的

本研究の目的は3つある。①がん患者の診断初期の離職率の把握、②離職背景と復職の阻害要因の解析、③就労継続・復職にあたり、医療者が果たすべき役割の明確化である。特に、本研究は先行研究からすでに明らかとされているがん患者の離職リスク要因に加えて、新たにがんの部位・治療内容の相関を分析するとともに、治療の時間軸に沿って、いつ、どのようなタイミングで医療者が介入することが有用であるかを見極めることである。

### B. 研究方法

がん患者の仕事と治療の両立に関する実態調査プロトコルの作成・立案

### <倫理面への配慮>

厚生労働省が定める臨床研究に関する倫理指針および疫学研究に関する倫理指針に従い、必要に応じて、調査実施前に関係機関の倫理審査委員会の承認を得る予定である。また、研究の趣旨および研究方法の説明、研究性成果により予測されるメリット・デメリット、結果公表に際しての匿名性の保持、同意撤回の権利等を趣旨説明書に明記することとする。

### C. 結果

がん患者の仕事と治療の両立に関する実態調査プロトコルの作成・立案

実態調査プロトコル作成メンバーにおいて、討議を重ね、以下のように実態調査を企画

中である。

## 1) 研究デザイン

前向き観察研究

## 2) 症例の選択基準

〔適格条件〕

- (1) IRB による研究計画承認後、早い時期の約 1 か月間に、研究参加施設に初診した初回治療前の患者
- (2) 年齢：20 歳～65 歳
- (3) 対象部位：がんの疑いもしくは臨床的・組織学的、病理学的に診断されている者で、国立がん研究センターにおいて治療を開始する予定の患者。
- (4) 調査に関する合意が得られること

〔除外条件〕

以下のいずれかを満たす患者は登録の対象としない。

- (1) 初診後、再診予定のない患者
- (2) 患者に明らかな意識障害がある場合
- (3) 患者に重篤な身体症状があり、研究への協力が困難な場合
- (4) 患者に重篤な精神症状（重度の認知機能障害、重度の抑うつ状態）があり、研究への協力が困難な場合
- (5) 患者が日本語の理解が困難な場合
- (6) その他、担当医が調査への参加が不適格と判断した患者

## 3) 調査方法

### 3-1. 第 1 回アンケート調査

調査期間内に、各施設の初診手続きを行った患者に対して、診察後の検査説明を行う看護師もしくは事務職員が患者に対し「仕事とがん治療の両立に関するアンケート」を用いて、調査

協力の依頼をし、アンケート用紙を手渡しする。なお、アンケートの回収に関しては、各外来窓口および会計窓口を設置した調査票回収箱への投函、または治療開始までに郵便ポストへ投函を依頼する。

〔調査項目〕

- (1) 性別、家族背景、がん種および治療内容の基本情報
- (2) 就労状況
- (3) 就労の阻害要因および促進要因となっている事柄
- (4) 離職や復職にあたっての相談状況
- (5) 医療者に対して望む支援、保険制度に対して望む事柄、その他受けたいと考える支援
- (6) 仕事の生産性及び活動障害に関する質問票 (WPAD)
- (7) がん患者用の QOL 尺度 EORTC QLQ-C30 (version 3)

### 3-2. 第 2 回アンケート調査 (6 か月後)

第 1 回アンケート調査実施から 6 ヶ月後に、外来再診患者を対象に第 2 回アンケート調査を実施する。アンケート用紙は、再診後に、看護師もしくは事務職員が、患者に対し、「仕事とがん治療の両立に関するアンケート (6 ヶ月後)」を用いて、改めて調査協力の依頼をし、アンケート用紙を手渡しする。また、アンケートの回収に関しては、各外来窓口および会計窓口を設置した調査票回収箱または郵便ポストへ投函を依頼する。

〔調査項目〕

- (1) 治療内容等の基本情報
- (2) 就労状況
- (3) 就労の阻害要因および促進要因となっている事柄
- (4) 離職や復職にあたっての相談状況